

睡眠呼吸障害について

内科 副部長 熊谷 真史

「睡眠呼吸障害」と言えばあまり聞きなれないでしょうか。以前は「睡眠時無呼吸症候群」と言っていました。眠っているときに呼吸が止まったり、極端に低呼吸になってしまう障害のことです。

睡眠呼吸障害があると、文字通り寝ているときに呼吸をしていないように見えたり、いびきがとてもうるさくなったりします。また、夜中に眠れていないのと同じ状態になりますので、日中に眠気が強くなったり居眠りしてしまうことがあります。それだけでも運転中の事故等につながりかねず危険ですが、実は睡眠呼吸障害は高血圧、心臓病、糖尿病などの様々な病気を引き起こすということが最近明らかになってきました。血圧の薬や糖尿病の薬を複数飲んでいる、あるいは生活に気をつけて薬もちゃんと飲んでいるのになかなか数値がよくなるという方の中には、睡眠呼吸障害が関係している可能性があるかもしれません。

睡眠呼吸障害の検査は2段階に分かれます。まず外来(自宅)で簡易検査を行って、睡眠呼吸障害が疑われる場合は1泊入院して検査を行い、確定診断となります。比較的簡単にできて、痛くもなんともない安全な検査です。今年度から労災病院でも入院検査を行えるようになりました。「自分は大丈夫かな?」「うちの人は大丈夫かな?」と気になる方は、病院までご相談ください。

クリスマスコンサートが開催されました!

12月12日(金)に成章小学校、成章中学校によるクリスマスコンサートが開催されました。

当日は14時30分より、病院ホールにて吹奏楽の演奏や合唱をおよそ110人の方々が楽しみました。入院患者の方々も多数聴きにきていただき、大変満足された様子でした。1時間ほどのコンサートでしたが楽しい時間をすごせました。

